

見て、触れて、やってみよう！

対象児：1歳児 ばら組
作成日：2024年9月19日
作成者：高橋加奈

ねらい：様々な発見や気づきを保育者や友達と共有しながら、五感を使った感触遊びを楽しむ。

～小麦粉粘土～
「こねこね～」



～氷あそび～
「つめたっ！」



保育の振り返り

ままごとなどの見立て遊びや簡単なパズル、絵を描いたりシールを貼ったりするような指先を使う遊びに集中している子が多く、さらに興味や関心を深められるよう、指先を使う遊びをもっと積極的に取り入れられたらと考えました。

まずは小麦粉粘土。準備をしていると「なになに？」と言わんばかりに集まって様子を見ていた子どもたち。はじめての体験でしたが、保育者の真似をしてちぎったりこねたり…おそろおそろ触れようとする子、手では触れようとしない子もいて、様々な反応が見られました。次に氷あそび。氷に触れてみると「つめたっ」と冷たさを感じる子、そして氷をカップに入れて振ると“カラカラ”とした音、氷がとけて無くなると「ないなった～」という子もいました。指先だけでなく聴覚や視覚でも、いろいろな刺激を感じることができたようです。

見る、触れる、におう、聞く、食べる…日々の生活や遊びの経験を通して五感で感じることは、たくさんあります。その発見や気づき、「あれ？」という不思議に共感したり言葉で丁寧に応答したりすることで子どもたちの遊びの幅を広げ、自分なりの「好き」を追求したり、「やってみたい」という意欲を高めたりできる援助ができればと思います。

(思考力の芽生え、豊かな感性と表現、言葉による伝え合い)